

みんなで未来の高校のアイデアを考えよう！

しがの高校をリ・デザインする 県民ワークショップ

第3回 開催報告

10月11日（日）
13:30～16:00



しがの高校をリ・デザインする 県民ワークショップ

第3回 開催概要

日 時：2026年10月11日(日) 13:30～16:00

会 場：長浜市民交流センター

参加者：35名

主 催：滋賀県教育委員会

当日のスケジュール

13:30	開会・教育委員会からの説明 / ワークショップの説明
14:00	第1ラウンド 高校で「もっとこうだった」ことは？
14:30	第2ラウンド アイデアをたくさん出そう
15:05	第3ラウンド アイデアをもっと深めよう
15:35	発表・共有
15:55	まとめ



このワークショップについて

滋賀県では、2040年を見据えた高校教育の将来ビジョンの策定を進めています。本ワークショップは、その検討に県民の声を反映させるため、中高生・大学生から保護者、教職員、地域・企業の方まで、さまざまな立場の人が集まり、これからの高校の在り方を対話で考える場として県内6か所で開催します。

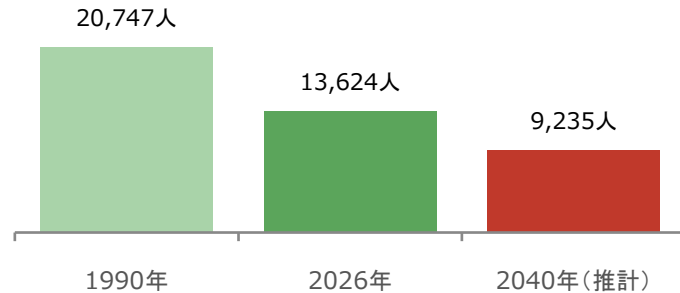
参加者

高校生12名、大学生等8名、保護者1名、教育関係者5名
企業・教育事業・NPOなど5名、地域住民・自治会2名、行政・議会2名

2040年を見据えた高等学校教育の在り方について

滋賀県教育委員会から、滋賀県の高学校教育を取り巻く課題について説明がありました

1 生徒数の減少



滋賀県の15歳人口（中学校卒業予定者数）は、2026年から2040年までに約4,389人減（約110クラス分に相当）の見込み。

- ✓ 生徒数の減少に合わせた学校規模の検討
- ✓ 地域の実情に応じた配置・役割
- ✓ 多様な学びの場の確保

2 学びの多様化と授業料無償化

学習ニーズの多様化

- ・ 生徒の興味・関心や進路希望等に応じた学びの多様化への対応
- ・ 不登校生徒の増加に伴う対応や、外国人生徒等の多様な学びへの対応

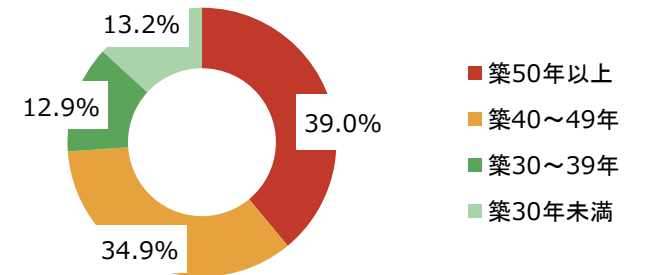
地域とのつながりによる学びの展開

- ・ 地域や企業との交流、地域人材の活用等による高学校教育の魅力化
- ・ 地域課題の解決に主体的にかかわる、地域の将来を支える人材の育成
- ・ 地域の小中高の学校段階間の円滑な接続

国による高校授業料無償化の拡大（令和8年度～）

- ・ 公立・私立を問わず経済的負担が軽減
- ・ 県立全日制高校の平均志望倍率が1倍を切る
- ・ 県内私立全日制高校への志望割合が15.9%で過去最高

3 校舎等の老朽化



- ・ 将来的に多くの学校で改築や大規模改修が必要となり、その経費負担が大きな課題に。
- ・ 魅力化の観点から、施設・設備の充実（専門的な学びに対応した設備機器、体育館空調など）も必要。

4 課題のまとめ

多様な生徒一人ひとりが「滋賀」という地域から学び、社会の一員としての自立を目指す学校づくりを進めるとともに、時代に合わせた新たな学び、県立高等学校の配置の在り方等を検討し、**生徒、保護者から進学先として選択される、魅力ある高校づくり**を進めていく必要がある。

第1ラウンド：高校の いいところ / 困りごと を出そう

高校生活を振り返り、「いいところ」と「困りごと」を出し合いました

いいところ

友だち・ 人間関係	・友だちがたくさんできる、みんな仲良し ・いろんな地域から集まるので友だち関係が楽しい ・大学と比べ、クラスがあるから友だちがしやすい ・部活の先輩と一緒に帰り、宿題もみてくれた ・少人数のクラス・授業、生徒がよくあいさつする
部活・ 行事	・部活動が楽しい、部活が青春すぎる ・文化祭・体育祭が盛り上がる、有志発表やバンド ・生徒会で学校生活に関われる ・お昼のお弁当を開ける時のワクワク ・帰りの買い食い、自転車通学で道やお店を発見
学び・ 先生	・自分の興味のあることが学べる、系列が多い ・探究の授業、大学の先生や職業人の話を聞ける ・先生が親身、生徒と先生の距離が近い ・自由度が高い、やる気があればなんでもできる ・学び直しの授業で、元不登校の子が力をつける
地域・ 自然	・地域としっかりつながっている、祭りに出店 ・森の探究科など、地域に根ざした学び ・小学校・子ども園との交流、ボランティア ・自然が豊か、すぐ横が森、動物もいっぱい ・歴史の史跡が近く、学校にも長い伝統がある

困りごと

通学・交通	・電車の本数が少ない、駅から遠い ・雪や雨の日の通学、冬の自転車通学がキツイ ・バイクや車の免許がとれず、通にくい ・遊びに行く場所が遠い、まわりにお店がない
校則・ 雰囲気	・校則が厳しい、変な校則（髪型・制服・ピアス） ・先生の頭がかたい、校長の話が長い ・出席日数のしほり（別室登校が認められない） ・発達の支援やヤングケアラーへの支援が足りない ・勉強はするからバイトさせて
施設・環境	・校舎が古い、トイレをきれいに ・教室が暑い・寒い、学食がない、購買がせまい ・教室以外の休憩スペース・サードプレイスがほしい ・タブレットのスペックが低い、ネット環境が悪い
学び・ 進路	・授業が一方通行、話せる英語やお金の勉強を ・文理選択が早い、受験の先をあまり教えない ・他校や地域の人、大人との交流が少ない ・部活の数が少ない、人数が減って定員割れ ・やりたいことを新たに見つけても行動しにくい

第2ラウンド：アイデアを広げよう

第1ラウンドの声をヒントに、「こんな高校だったら？」とアイデアを出し合いました

もっと 選べる	・大学のように授業を選ぶ、時間割を自分で決める ・どこの高校の授業でも受けられる、学校間留学 ・進路に合わせた授業、専門学校の高校ver. ・学年のしほりをなくす、休学制度、高校を4年に ・対面と映像・リモートのハイブリッド、フレックス制
地域が 学校に	・街を学校にする、空き家や古民家を教室に ・地域の人が先生、地域の職人が技術を教える ・地域での活動に単位を出す ・高齢者施設と一体化、家庭科は地域のお母さんから ・高校生が町内会やまちづくりに関わる
社会・大人 と出会う	・経営者や社会人、大学生から授業を受ける ・「成功者」でない大人との交流、ロールモデル図鑑 ・賃金がもらえる職業体験、インターン ・納税・保険・金融を実際に体験して学ぶ ・長浜の企業と共同で学び、就職にもつなげる
生徒が つくる	・校則は生徒がつくる、いったん全部見直す ・制服・私服の選択制、髪型や服装を自由に ・学園祭を本当の生徒主体に、予算も生徒が管理 ・生徒が授業をする、グループごとに先生役 ・ヤバイ校則グランプリで全国投票

バイト・ 資格	・条件付きでいいからバイトを認めて ・バイトやインターンを単位にする ・学校で運転免許がとれる、校内カフェでバイト
先生・ 体制	・教員以外が管理職、民間人も教員免許OKに ・社会人経験のある先生、専門性の高い先生を ・先生が生徒を信じる、相談しやすい関係 ・カウンセラーを増やす、AIでできることはAIに
学校同士を つなぐ	・長浜5校生徒ミーティング、生徒会同士のつながり ・近隣校のネットワーク、社会人と合同の部活 ・他校の人も入れる文化祭、地域間交流のしくみ
居場所・ 施設	・校内にコンビニ・カフェ、駅の近くに高校 ・休憩するためだけの部屋、トイレ・食堂・シャワー ・別室登校を出席に、不登校の人のクラスを ・地域の人がつくるおひるごはん、おかんの給食
遊び心	・屋上で昼食OK、どこでもドアをつくる ・巨大な予算がある文化祭 ・椅子がリクライニング、黒板が一瞬で消える

第3ラウンド：2040年の湖北に、理想の高校を作るなら？

一人ひとりが「アイデア提案シート」に理想の高校を描きました（全45件より抜粋）

新しい学校のかたち

滋賀の高校：1校（キャンパス分け!!）

全県一区をやめ、45校を1つの「滋賀の高校」に。各校がキャンパスになる

ワンストップ校

1つの大きな学校と、各地域の分校。心のケアや専門、自然とのふれあいも

小中高の区分をなくす学校

学校を一本化して多世代が交流。建物や人のコストも減らせる

中高一貫校

課題の近い中学と高校で、生徒を長い目で支援。部活動も連携

ボーダーレス・スクール

全日制・週〇日制・通信制などを選び、学校を選びなおす自由も

親子で通える高校

大人の学び直しも。親子で移住でき、農業・福祉・林業などの就職先も

複合型施設の高校

長浜の企業が併設し、カフェスペースなどで職業体験。地元の就職率UPへ

「自分で生活」ができる学校

コンビニやスーパー、病院がそろう。通いでも寮での一人暮らしでもOK

まち・地域が学校に

湖北全体がキャンパス

1年次は伊香の森、2年次は農高の実習…と選べる。空き家や図書館も教室に

地域の人全員が教員な学校

古民家で授業、病院で保健、パン屋で調理実習。教員の移動はLUUPで

古民家でのおかん給食高校

高齢者も一緒に食べて過ごし、勉強以外の地域のことも学べる

すごいスタジアム

街を学校に。色んなスポーツのスタジアムに子どもプロのチームも集まる

地元企業と一緒にする授業

生徒のアイデアを、地元企業がそれぞれの得意分野で協力して実現する

誰でも学べる学校

地域の人も出入り自由で、授業や行事にも参加できる（防犯は大切に）

楽しく集う学校

社会人、大学生、乳幼児から地域住民まで。学べる人から学び、生徒も教える

地域との交流ある学校

山・森の自然を学び、残していく学部。地域の行事にも参加する

学びを自由に選ぶ

まるで大学みたい!! KOHOKU H.S.

500人の大講義室、サークルいっぱい。授業も服装も自由に選べる

高校と大学の良いとこ取り

授業は自由に選びつつ、少人数クラスと担任で何でも相談できる

リバティースクール

対面とオンラインのフレックス授業。探究発表や論文で卒業、飛び級も

学校間留学×AI 学びの自由

AIで完結する授業と人が必要な授業を分け、他校の授業も受けられる

好きを極める高校

自分で科目を選び、他校の授業も受講できる。県内がキャンパス

専門高校作り（実力主義）

将来やりたい分野を専門的に学ぶ。活躍度に応じて奨学金も出す

限りなく技術が発展した高校

AI中心の学び。校舎には相談室など「対面だからこそ」の場を残す

自分を見つけられる高校

部活だけでなくバイトやインターンも選べ、やりたい事を見つける時間を

生徒が主役の学校

生徒が主役

生徒が教師を採用し、月1回は生徒が授業をする。AIが校長、フレックス制

みんなが納得できる高校！

校則をいったんなくし、先生と生徒で作り直す。条件付きでバイトOK

なんでもありな生徒主の高校

校則は生徒と決める。制服は型や色を選べ、SNSも授業や部活で活用

自由な校則へ

制服か私服を選べ、ピアスや髪染めもOK。生徒が話し合っ校則を変えられる

社会密接型課外活動やっていくぞ!!高校

お金の授業や地域の社長との関わり。年1回の成果発表（プレゼン）

学力以外の面も評価してもらえる高校！

人と話す力、創造力、協調性、行動力など、あらゆる力に視野を広げる

自分の子どもを行かせたい学校

「どんな経験ができ、どんな力がつか」を各校が明言。進学実績＋α

みんなでよりよい形を追究し続ける学校

生徒・教員・保護者・地域で話し合いを重ね、地域の歴史も大切に

参加された方の声（アンケートより、一部抜粋）

Q1 今日の話し合いで、いちばん印象に残ったのはどんな話でしたか

- ・高校生から、校則の厳しさや理不尽さ、生徒の主体的な意思決定の不足への息苦しさがかんنانに出るものかと思いました。前向きでクリエイティブなアイデアはどれも素晴らしいです。
- ・社会人との関わりによって、未来のことがとても考えやすくなったと思いました。未来への不安が大きい中で、少しでも大人になるのが楽しみになるといいと思います。
- ・探究学習はどの学校でも進んでいることは分かったが、当事者である生徒は興味のないことをやらされている、ということが新しい発見だった。
- ・学校に協力してくださる企業さんが少ないからこそ、街全体を学校にしたら、協力ではなく働いている人も一緒になって学べると考えた。
- ・学校の形を考えていく中で、一つの学校と多数のキャンパスという形はとても面白いと思った。
- ・長浜地域は地域連携の経験・実績に自負を持っているという実感があつた。そのことを高校生・卒業生が誇らしげに話していることがとても印象的でした。
- ・高校生のリアルな声として、特色化・実践的な学びを、というものが多く意外でした。一方で、志向性が定まっていない生徒に必要な考えも出ており、この両面をつなぐのが高校教育（とくに普通科）の役割だと考えが深まりました。
- ・今の教員は一旦全員いらないと高校生から求められたこと。寂しいが、これが新しいスタート。高校生に期待！
- ・高校生の方々が、自分の言葉で意見をしっかり話せるところに感心しました。

Q2 今日、伝えきれなかったことはありますか

- ・「生徒数の減少に合わせた学校規模の検討」ばかり言われますが、なぜ学級規模は省みないのでしょうか。40人定員を20人にすれば、その場の子たちのやりたいこと、困っていることに合わせて、もっと丁寧に教育ができます。
- ・通うことが普通ではなかったけれど、学校が楽しい場所であれば通うことができたかもしれない。より多くの人が楽しく通える学校であればいいなと思いました。
- ・人口が減りつつある町の中で、高齢者も若者も、小さな子どもまで1つになれる、そんな高校が出来ればいいですね。
- ・「とがっていく」「いろんな経験ができる」は各校で取り組んでいることだが、横のつながりが弱いことが本質的な課題では？
- ・学校教育の方針に、生徒もいっしょに参加できるようにしたい。
- ・校則の話で、もっと自分がこうしたい（髪を染めたいなど）を言えなかった。
- ・今日の意見を実現するために、おもしろい校長が必要です。

Q3 今後、こんなことを話し合ってほしいというテーマはありますか

- ・市民から出たアイデアは聞くだけでなく、ちゃんと生かしてほしい。結局単なる統廃合がオチでは「市民の声はなんだったの？」ということになります。
- ・今日のワークショップの内容が、もっと広く地域や高校生に共有されることを願います。
- ・北部に高校を存続させるためにできること。何が必要か、どこと協力し、誰と連携するのか。
- ・学校を地域の核とするためにはどうしたらいいか。
- ・家庭環境で学校へ通えない子に、少しでも学びの場を多くつくるにはどうすればよいか。
- ・未来（2040年）はどんな時代かを、プレストしてみたい。
- ・高校生は自分の住むまちのことをどれだけ知っていて、どんなところに愛着をもっているか聞いてみたい。



会場の様子